

横浜市磯子区南部の丘陵地帯に

広がる洋光台地区。昭和40年

代、横浜市と日本住宅公

団（現UR都市機構）

によって開発されたエ

リアで、横浜駅から

JR根岸線に乗って

約20分。洋光台駅前

には、高層棟を中心

とした洋光台中央、中

層5階建てを中心とし

た洋光台北、洋光台西の

団地が広がり、周辺に一戸

建てなどが建ち並ぶ一大住宅地

となっている。

6月25日、洋光台駅から洋光台中央  
団地の広場に向かうと、楽しげなライ  
ブの音が聞こえてきた。開かれていた  
のは、「洋光台クラフトマルシェ」。25、  
26日の開催で、クラフト作家による53  
ものブースが出店。おしゃれな手作り  
作品に、若い女性から高齢者まで、多  
くの人々が集う。子どもたちが楽しげ  
に参加しているのは、サンドアートや  
スクイーズづくりなどのワークショップ  
だ。スロープに設けられたステージ  
では、地元で活躍するミュージシャン  
らによるライブが繰り広げられ、お祭



阿部民子 text by Tamiko Abe

Illustration by Shigeyuki Sakata

り気分を盛り上げている。

天然石を使ったアクセサリ  
を販売していた女性は、千葉から  
の参加だとか。「何回かこのマルシェ  
へ出店していますが、ハンドメイドに  
理解のあるお客様が多くて、皆さんと  
ても優しい。生演奏が行われている雰  
囲気も大好きです」

「また会えたわね」とお客さんから声  
をかけられていた布小物作家さんは、  
「毎回楽しみに来てくださる顔なじみ  
さんまできて、みなさんとおしゃべり  
するのも楽しみです」と笑顔で話して  
くれた。

### ○団地とまちのにぎわいを創出

洋光台エリアの核をなす洋光台中央  
団地の入居が始まったのは、1970

洋光台中央団地などの店舗プロデュ  
ースを手がける新都市ライフホールデ  
ィングス。URも場所の提供やPRなど、  
裏方としてサポートしている。

新都市ライフホールディングス第二  
エリア経営部営業第二課長の池田英憲  
さんは、同社のメンバーと共に前日遅  
くまで準備に奔走したという。

「マルシェを始めたのは、2018年。  
『懐かしくて、新しい』をコンセプト  
に、全国から個性あふれる作家さんや  
デザイナーの方々を招き、幅広いお客  
様にお越しいただいています。今年  
はコロナ禍のなか、密にならないよう  
など細心の注意を払いながら  
開催できて、ほっとしていま  
す。これからも、マルシェな  
どの活動を通して地域の盛り  
上げに尽力したいですね」と  
話す。

### ○団地の未来を担うプロジェクト

「団地の未来プロジェクト」  
から派生した洋光台クラフト  
マルシェ。開催から5年を経  
て、その活動は地域の活性化  
へとさらなる広がりを見せて  
いる。

近県からも参加する人が多く、  
自慢のクラフトを販売している。



その一つが、新店舗の開店だ。マル  
シェに参加した作家が団地の空き店舗  
に出店。クラフト好きや、新たなにぎ  
わいの拠点となっている。

ポップな色合いのマルシェのチラシ  
も、地域住民の手によるものだ。  
「チラシのデザインやイラスト、イベ  
ントの写真撮影、演奏してくださっ  
ているミュージシャンも、地元の方々  
です。発信力やパワーのある方が多い  
も、洋光台の特徴ですね」と池田さん  
は話す。

地域住民から才能や意欲のある人  
を発掘し、人と人をつなげ、コミュニテ

年のこと。それから約半世紀。現在、  
この団地を中心にモデルケースとして  
進められているのが「団地の未来プロ  
ジェクト」だ。

「団地の価値を精緻に見つめ直し、磨  
いていく。そして、新しい時代の輝き  
を与えていく」とのコンセプトのもと、  
URと地元住民、神奈川県、横浜  
市、磯子区などの行政が連携。プロジ  
ェクトのディレクターアーキテクトに  
世界的建築家である隈研吾氏、プロジ  
ェクトディレクターには日本を代表す  
るクリエティブディレクターの佐藤  
可士和氏を迎え、2015年にスター  
トした。これまでに、隈研吾氏監修で  
クラフトマルシェの会場となった洋光  
台中央広場や、洋光台中央団地住棟の  
外壁をリニューアル。洋光台北団地集  
会所と広場のリノベーションなど、斬  
新な施策が進められてきた。

「プロジェクトが目指すのは、団地を  
核に、まち全体の魅力と価値を向上さ  
せることです。今回のクラフトマルシェ  
も、このプロジェクトの一環として、  
にぎわい創出の意図を持っていきます」  
と話すのは、UR神奈川県エリア経営部  
ストック活用企画課の山岡大志だ。  
クラフトマルシェを主催するのは、

イの形成に一役買っているのが、「ま  
ちまど（洋光台まちの窓口）」だ。「団  
地の未来プロジェクト」の前身「洋光  
台エリア会議」から誕生した組織で、  
洋光台エリアの活動や情報を収集&発  
信、地域活動のハブとなっている。  
「まちまど」の活躍に加え、自治会や町  
内会、商店会の活動も非常に盛んです。  
団地の方だけでなく、周辺にお住まい  
の方々も加わって、ビジョンを持つて  
活動していらっしやる。そういう方  
お話を聞いていると、素直にすごいな、  
と感じます」とURの山岡も話す。

今後は、北団地の外壁修繕工事、高  
層棟の建て替えに向けた動きなど、ハ  
ード面での取り組みも予定されている。  
「団地の未来プロジェクトが始まって  
既に8年目になる。全国の団地、また社  
会課題解決に向けた  
一大プロジェクトとし  
て、先達の方々の思  
いを受け継ぎながら、  
気を引き締めて臨ん  
でいきたい」と山岡。  
団地、そして地域の  
未来に向けて。注目  
のプロジェクトのこ  
れから期待が集まる。